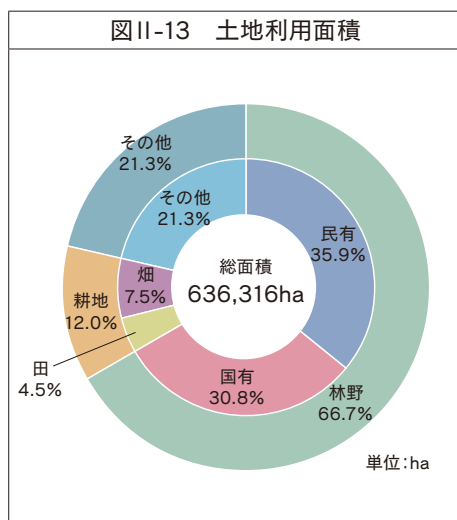


## 2 森林環境の保全

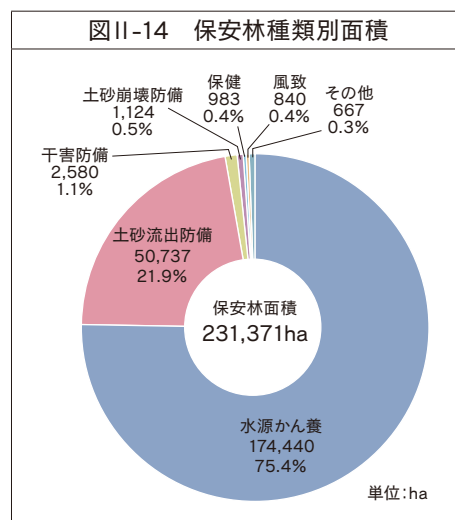
### (1) 公益的機能の高い森林づくり

#### ア 現状・課題

- 県土面積の3分の2を森林が占め、国有林率46%、保安林指定率54%は、全国平均の29%、47%に比べ高い状況にあります。



(資料 群馬県：森林林業統計書)



(資料 群馬県：森林林業統計書)

- 利根川の上流に位置し、水源の涵養<sup>かん</sup>、災害防止など、本県の森林が果たす公益的な役割は、首都圏の生活、産業活動を守り支える上で、極めて重要となっています。
- 東毛地域の平地林から北毛地域の亜高山帯に至る多種・多様な森林が存在し、多くの動植物が生息しています。
- 辺境の奥山まで人工林化が進み、整備の遅れた森林が増加傾向にあります。
- 平地林が近県に比べ少ない状況にあります。
- 耕作放棄地の増加、竹林の拡大、マツクイムシ被害<sup>※1</sup>の拡大等により、里山の荒廃が進行しています。
- ニホンジカの生息域が拡大し、幼齢木の食害や角とぎによる剥皮被害が増加しています。また、ツキノワグマによる高齢木の剥皮被害の拡大は、森林所有者の経営意欲を減退させるなど深刻な状況にあります。



写真：ツキノワグマによる剥皮被害



写真：シカの角とぎによる剥皮被害

○県内では、平成22年に初めてカシノナガキクイムシによるナラ枯れ<sup>※2</sup>が確認され、今後の拡大が懸念されています。

## 1 施策展開

### 公益的機能を高度に発揮する森林づくりを進めます

#### POINT 施策のポイント

- ◇関東一の森林県、水源県ぐんまとして、水源涵養<sup>かん</sup>、災害防止、地球温暖化防止機能等、公益性の高い森林の造成を行います。
- ◇生物多様性を保全する森林の整備と造成方法の調査研究を行います。
- ◇採算性が見込めない森林については、新たな森林整備方法の調査研究を進めるほか、公的な森林整備を推進します。
- ◇拡大しているシカ、ツキノワグマによる樹皮の剥皮対策として、鳥獣保護事業計画<sup>※3</sup>や他の計画との整合性を保ちつつ、被害防止に努めます。
- ◇ナラ枯れ被害の拡大を防止するため、早期発見・駆除に努めます。
- ◇公益上特に重要な森林は、保安林指定、公有林化などによる公的森林管理を推進します。
- ◇森林の無秩序な伐採、開発を防止するため、県、市町村が連携して巡視、指導を行います。

#### ◆数値目標

項目	現状(平成22年)	目標(平成32年)	備考
広葉樹造林面積(ha/年)	85	100	
民有林治山事業による森林整備面積(ha)	—	4,000	10年間累計
保安林指定面積(ha)	—	400	10年間累計
民有林治山事業施工面積(ha)	—	600	10年間累計
平地林保全面積(ha)	526	530	

#### ◆具体的施策

##### ①森林の公益的機能を高める森林整備の推進

- 市町村が作成する市町村森林整備計画に基づき、森林の機能区分<sup>※4</sup>に応じた整備・保全に取り組みます。
- 手入れの遅れた森林や荒廃した竹林の整備を推進し、森林の有する公益的機能を高めます。
- 県は、水源の涵養<sup>かん</sup>、災害の防止など、これまで重視されてきた公益的機能の発揮に加え、生物多様性の保全に資する森林の整備方法についての調査・研究を進めます。また、一斉林<sup>※5</sup>や単層林<sup>※6</sup>から混交林<sup>※7</sup>や複層林<sup>※8</sup>へ誘導するための研究も進めます。



写真：手入れが必要な森林  
（立木が混み合い、日が差し込まず、下草が消失して土壌が流出）



写真：手入れを行った森林  
（日が差し込み、立木が旺盛に成長）

- 県は、保安林等の公益上特に重要な森林の機能を高めるため、治山事業等によって森林の整備を行います。
- 森林所有者だけでは対応できない竹林の整備にあつては、森林ボランティアやNPO 法人との協定に基づいた整備を進めます。

## ② 公的森林管理及び山地災害対策の推進

- 水源涵養<sup>かん</sup>や災害防止、また、都市周辺の環境保全など、公益上、特に重要な森林は、保安林の指定によって長期にわたって保全します。また、公的森林管理のひとつとして、県及び市町村による公有林化などを検討します。
- 県は、山腹工事や治山ダムの設置などにより、山地災害の復旧・予防に取り組み、国土の保全と地域の暮らしの安全を確保します。



写真：赤城山の保安林



写真：山地災害の発生



写真：山地災害の復旧

### ③森林獣害防止対策の実施

- シカ、ツキノワグマによる樹木の剥皮被害を防止するため、忌避剤<sup>※9</sup>塗布や被害防止テープ等の巻き付け、侵入防止柵の設置などを推進し、森林所有者の林業活動を支援します。
- 多種・多様な森林づくりによって野生鳥獣の生息環境を確保し、里山の被害軽減を図ります。
- シカの食害、角とぎ等被害の著しい地域においては、シカ適正管理計画<sup>※10</sup>などとの整合性を保ちつつ、個体数調整等に取り組みます。
- ツキノワグマによる剥皮等の行動を究明するため、県は、被害防止に向けた調査、研究に取り組みます。

### ④ナラ枯れ、マツ枯れ被害の防止

- カシノナガキクイムシによるナラ枯れの拡大を防止するため、県、市町村及び国有林は連携して情報収集に努め、早期発見・駆除対策を推進します。
- ナラ枯れは、高齢樹の発生が多いことから発生地周辺では、健全木の伐採・利用を図って森林の若返りを推進します。
- 保全すべき重要なマツ林や単木は、薬剤の樹幹注入によりマツクイムシ被害の防止に努めます。



写真：赤茶色に変色したナラ枯れ箇所



写真：カシノナガキクイムシ

### ⑤平地林の保全・管理

- 平地林の保全に対する気運が一層高まるよう、地域住民への働きかけを積極的に行います。
- 地域のシンボル、憩いの場、環境学習の場などとして重要な平地林は、当該自治体による森林所有者との協定あるいは公有林化等を通して保全を図ります。



写真：住民に親しまれる平地林

⑥伐採届制度、林地開発許可制度の適正な運用

- 県及び市町村は、無秩序な森林の伐採や開発を防止するため、森林法に基づく権限を適正に行使します。
- 県は、森林保全巡視指導員及び森林保全推進員によってゴミの不法投棄や違法な開発・伐採などの早期発見に努めます。
- 県及び市町村、森林組合は、情報の共有に努め、密接な連携により事案に適正に対処します。



写真：土石採取を目的とした林地開発地



## 『用語の解説』

---

### ※1：【マツクイムシ被害】

マツノマダラカミキリにより運ばれた体長約1mmの線虫であるマツノサイセンチュウがマツの樹体内に進入することにより引き起こされるマツの伝染病。

### ※2：【カシノナガキクイムシによるナラ枯れ】

カシノナガキクイムシがナラ・カシ類等の幹に穴をあけて穿入し、体に付着した「ナラ菌」を多量に樹体内に持ち込むことにより発生する樹木の伝染病。

### ※3：【鳥獣保護事業計画】

鳥獣の保護繁殖を目的とする事業を実施するため、環境大臣が定める基準に従って各都道府県で策定する計画。鳥獣の捕獲などを規制する地域の設定や捕獲許可に関する規定、普及啓発活動などについて定めている。

### ※4：【森林の機能区分】

森林の有する多面的機能を上手に活かすために、それぞれの森林で特に大切な機能に応じて森林を分けたもの。

### ※5：【一斉林】

皆伐跡地に一斉に植林して造った、単一の樹種の森林のこと。

### ※6：【単層林】

人工更新により造成され、林齢や樹種が同じで、単一の樹冠層からなる森林のこと。

### ※7：【混交林】

2種類以上の樹種が存在する森林のこと。

### ※8：【複層林】

人工更新により造成され、林齢や樹種の異なる樹木で構成された森林のこと。

### ※9：【忌避剤】

有害な動物が嫌う味や臭いを使って近寄らないようにする薬品。

### ※10：【シカ適正管理計画】

個体数の調整、生息環境管理及び被害防除対策等を総合的に行い、ニホンジカを適正に保護管理していくための計画。